(C)十勝毎日新聞社

女子400予選

佐藤トップ通過

陸上日本選手権

【女子400㍍・予選】佐藤真有（左）は53秒53で決勝進出を決めた＝大阪・長居陸上競技場（エムアイプランニング・大賀章好撮影）

【大阪】ロンドン五輪代表選考会を兼ねた陸上競技の第96回日本選手権大会（日本陸上競技連盟主催）が8日、大阪市の長居陸上競技場で開幕、初日は男女15種目の決勝などを行った。十勝関係選手では女子400㍍予選の佐藤真有（東邦銀行―福島大、帯南商高出）がシーズンベストとなる53秒53で首位に立ち、同100㍍予選の福島千里（北海道ハイテクAC―帯南商高出）は11秒51で2位通過。両選手とも9日の決勝に進出した＝14面に関連記事。（北雅貴）

女子100 福島は2位で決勝へ

スタート不発も巻き返し誓う

福島

福島千里は得意のスタートで同走の北風沙織（北海道ハイテクAC）に後れを取るなど、リアクションタイムは22選手中5番目。持ち味のスタートからの加速がままならず、中盤では力みが加わり、最後までリズムに乗り切れなかった。2組ではトップだったものの、伸び盛りの高校生、土井杏南（埼玉栄2年）に全体のトップを許した。

今シーズンはスタートに苦労しており、今回は特に力を入れ、練習して臨んだという。それだけに「思っていたレースができずに反省点ばかり。自分でもショックを受けている」と何度も首をかしげた。

雨が強く、無風でコンディションにも恵まれなかったが、「天候を理由にしてはいけない。特に意識もしなかった」と言い訳にしなかった。決勝に向け、「まだ、やり直すチャンスはある。同じ失敗は繰り返さない。優勝と記録にこだわる」と巻き返しを誓った。（関係分）

【女子100㍍・予選】福島千里（右）は11秒51で決勝進出を決めた＝大阪・長居陸上競技場（エムアイプランニング・大賀章好撮影）

今季ベストで弾み

決勝「粘りが必要」

佐藤

「久しぶりの53秒台。自信を持って決勝に臨める」。最後の五輪挑戦に向けての好スタートに、佐藤真有は自然に笑みをこぼした。前半はやや抑えめに入り、中盤からゴールまで力強い走りを見せた。

今シーズンは昨年同様、54秒台が続き、記録が出ないことに心中穏やかではなかった。

この大会に懸ける気持ちは強く、雨が降りしきる中、1組の中で最も早くトラックに姿を現し、入念に体を動かすなどした。トップで最後の直線に入ったが、2レーンの新宮美歩（東大阪大）が視界に入った。「一歩でも前でゴールしたくて、ラストも、がむしゃらまではいかないまでも力は抜かなかった」と笑顔を見せる。

新宮が53秒66、蔭山愛（早大）が53秒83と、若い2人が自己ベストを出した。53秒83の記録を持つ鳥原早貴（青山学院大）も予選3組のトップで決勝に進んだ。「みんなが調子が良いみたい。レベルが高い中で自分も自己記録を狙う」と力強い。

昨年の日本選手権では屈辱の予選落ち。リベンジを果たした形だが、「まだまだ。決勝が残っている。後半のつなぎとラストの粘りが必要」。4年前に出した53秒05の自己記録を上回る、52秒35（五輪参加標準記録B）が視界に入ってきた。

【女子】△予選▽◇100㍍（3組2着＋2決勝へ）▽2組＝①福島千里（北海道ハイテクAC―帯南商高出）11秒51・決勝へ◇400㍍（3組2着＋2決勝へ）▽1組＝①佐藤真有（東邦銀行―福島大、帯南商高出）53秒53・決勝へ